

令和3年度 第1回学校評議員会 議事録

日 時：令和4年2月28日（月）午前10時～午前11時

参加者：【評議員】水谷様（宮城教育大学大学院）、岩田様（JA全農）、
高橋様（萩の郷福祉工場）、菊地様（青葉山町内会）

【本校】檜村、村松、藤原、菅野、中野

場 所：支援学校仙台みらい高等学園 寄宿舎食堂

1 校長挨拶

開催協力の御礼と助言のご依頼

2 評議員紹介

水谷様：情報分野での研究。特別支援に関わることが多い。福祉機器など。

三幸学園とは防災関係などもかかわりがある。

岩田様：スイーツ校との関わりがきっかけ。実習などもこれからも一緒に進めていきたい

高橋様：福祉、就労継続支援事業A型の運営。

菊地様：青果卸売も運営している。本校の圃場整備、授業での講師。

3 授業見学

自立活動授業見学。グループ分けの意図を説明させていただく。

4 学校評価について

資料の通り説明がなされた。

学校評価に関して、本校は非常勤講師も多いが全員にアンケートを実施。

保護者生徒に比べて、教職員評価が約10%低い。→教職員の意識の高さからくる結果とも受け取ることができる。

【生徒アンケート】

ポイント①いじめの早期発見といじめの概念を指導していくことが課題。

ポイント②部活動への評価が低い→有り方と運営方法検討。外部の大会参加なども幅広く今後検討。

【保護者アンケート】

ポイント①危機管理項目への不安が挙がる。保護者への情報共有も必要だと考える。

ポイント②進路指導への不安が浮き彫りに。特に専攻科の保護者からは支援学校を経験されていることもあり、厳しい見方をされる。

【教職員アンケート】

(1)教務

- ・教職員の教育活動における理解と準備への不安が大きい。
- ・生徒の実態、特性、能力の理解と個別の支援計画の活用を重点的に行う。
- ・教材研究、開発により力を入れなければいけない。⇒校務分担を明確にし、体制を整える。

(2)支援

- ・外部研修を積極的に実施し、教職員の教育力や支援学校の理解に努めたい。
- ・今年度は機能させることが難しかった「支援学校におけるセンター的機能」への取り組み強化。まずは三幸学園の中から障害者雇用の門徒を開く。現在進行形で動いている取り組みもある。

5 いじめアンケートについて

アンケート結果では推し量れない背景がある。

⇒指導方法の統一化と障害特性の把握

⇒指導後の自立活動授業を中心とした継続した学び

6 進路指導について

実習は全員実施できたものの、生徒の将来を見据えた実績を得たかとなると疑問。例えば生徒の特性や目標に沿った実習先が選定できていたか。実習後の行動や意識に変化があったのかなど課題は多い。まずは希望する業種職種に沿った企業開拓などできるところから進めていきたい。

7 質疑

高橋様：芸美コースとは具体的にどのようなコースか

→学校案内 7.8 ページを基に説明。本年度の本科 1 年生は、トライアル（後期）期間を通して自分の適性などを見極めている。中には就労先を見据えてコースを変える必要がある。専攻科は美容師免許取得を希望することができる。

水谷様：①芸美コースの就労先は美容関係になるのか。

プラスに考えれば競合がないことがメリットとなるし、成功すれば大きなネームバリューになる。

②教職員のアンケートで「教育をもっとやれるのではないか」ということへの具体的な意見はあるか。

→教材研究、準備の組み立てをどう展開していくかが課題。T2、T3 という補助教員との連携を SC とアセスメントを吟味してシステムの構成していく。

※生徒支援への具体性が出てくると生徒対応がしやすい。100点でなくても80点でも成果が出てくる。

岩田様：①自立活動の授業のグループ分けはどのように？

→自立活動における項目別目標表に基づき、生徒の自立活動の目標を立て、項目が当てはまった生徒とその生徒の課題を照らし合わせて分ける。授業内容は講義型ではなく、ロールプレイ形式が多い。

②生徒は納得してグループ分けをしているのか。

→個別の自立活動計画、アセスメントを基に目標設定し、生徒保護者に説明をしている。身だしなみや忘れ物などに対して、概念を考察してグループ分けするなど。

8 指導助言

水谷様

いじめに関して、いじめているつもりは本人にはない。いじめられている人はいじめられていると感じている。試行錯誤での授業の中で決めつけないで柔軟に対応していくことが必要。教員も指導できていない感があるので、少しでもステップアップして、できていないことよりも少しでもできているところを認める捉え方が必要。宮教大では教員の実践を知っていただき、解決策を見出していくことを重点としている。

菊地様

単純に生徒を見ると、従業員をみてるといじめ、子供たちの中の潜在意識を探っていくことで勉強になる。褒める、注意するなど生徒によって反応や理解が全く違う。菊地さんの会社に障害者雇用の従業員がいる。健常者との違いはある（突然爆発するなど）がそれを受容し、話し合うことで相互理解に繋がっている。賃金は最低賃金。その先の目標を持たせることが必要。農業は昔の畑仕事から企業になりつつある。今の子供たちは「起業」する生徒が普通になる。個々の特性を企業に理解してもらおう。一人では解決が難しい生徒たちを複数で解決できるコミュニケーション能力を。

高橋様

授業見学、生徒が生き生きとしている。最終的には保護者がこの学校を選んで良かった。そして自立して、納得のいく就職先に導く。まずは企業とのつながりを大切にしてほしい。人と人とのつながりを大切に。

岩田様

5月以来の生徒。私たちは経験を提供する場にいることを改めて感じた。職場でのコミュニケーション（いじめ、パワハラなど）が問題視されている世の中で、このような指導の方法や成果を企業にFBしてほしい。一般企業に十分に生かされる。

9 副校長挨拶

ノウハウがない中で生徒と関わっている中で、教員が難しさを感じているが、皆様のおかげで運営することができた。生徒の成長も実感しているので、そのプラスの変化を自信にしたい。生徒は少しの声掛けで変わる。そのタイミングを逃さない余裕を持つことが今後は必要。生徒保護者の安心安全、特に食事面での生活改善は成果が大きい。

次年度に向けて、また保護者生徒を大きな気持で迎え入れる準備をしていきたい。